



EMSME会 5周年記念誌

5th anniversary memorial magazine of group emsme



エムスメ会 5周年記念誌 ー目次ー

5th anniversary memorial magazine of group emsme -Contents-

	P
ごあいさつ・EMSME会とは?-----	1
メンバー紹介	
菊岡 深智子 Michiko Kikuoka-----	2
伊藤 明淑 Meisyuku Ito-----	3
朴 秀日 Park Suil-----	4
平松 絵里奈 Erina Hiramatsu-----	5
野口 晶子 Akiko Noguchi-----	6
藤浪 瑛智 Eiji Fujinami-----	7
EMSMEの足跡～5年の記録～-----	8
関連資料データベース-----	9



EMSME会5周年記念ロゴマーク

◆コンセプト◆

- ・キュービック(CUBIC)なカタチは、アートの玉手箱を表し、エムスメ会のメンバーの才能がぎっしりとてんこ盛りにつまっている。
- ・キューブ(箱)の3面に、「E」「M」「S」を配置。「エムスメ」の可読性を確保。
- ・下部の楕円は、地面を表し、足元をよくみて確実に歩むという会の理想を表現している。



あいさつ

2011年9月にEMSME会は、創立5周年を迎えることができました。これも、ひとえに温かく見守ってくださった皆さまのおかげでありますこと深く感謝申し上げます。

私たちEMSME会は、2005年、名古屋芸術大学大学院日本画コースの藤浪英智さんの提案により、名古屋芸術大学大学院の同期生が6人集まって結成しました。この会の魅力の一つに、メンバー6人が「専攻、年齢、国籍、性別、社会経験の違いを乗り越えて、お互い切磋琢磨しながらアートの世界を研究することができる」というものがあります。会設立当初は、大学院内で勉強会を頻繁に行い、様々な分野にまたがって情報交換をしてまいりましたが、5年という月日は、メンバーにそれぞれのリズムができあがり、以前より情報交換する上で困難なものに変化させてしまいました。

しかしながら、仕事の合間をぬって、会のために集まり、熱く語りながら情報交換をしている現状をみると、自分の中にある「アート」という到達点に向かって、挑戦し続けているエネルギーを感じます。メンバーそれぞれ、ゴールは違っても、アートの世界を追究する姿勢が変わらないことは、会の存在意義があるのではないかと最近気づきました。

これから、EMSME会は10年目に向かってさらに歩き出します。EMSMEにとって今年は進歩と変化、成長のための一年を迎えていると実感しています。少しずつ成長を続けているメンバーの作品を、展覧会を通して、より多くの人に知っていただけるように努力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

2012年5月

代表 朴 秀日

EMSME会とは？

○有志が自主的に運営しているアート研究組織です。名古屋芸術大学大学院を修了したメンバーにより活動しています。絵画系、デザイン系出身者があつまり、それぞれの研究領域の垣根を越えて、お互いに切磋琢磨しながら活動を続けております。

○今のところメンバーは6人。仕事の合間を縫いながら、小規模ならではのフットワークを生かし愛知県を中心に展覧会や勉強会を開催中。

○ちなみに「EMSME」の由来は、設立当時のメンバー5人のイニシャルから。一文字ずつとって構成するとEMSMEになりました。読みは「えむすめ」…会員は男女混在ですが会員の3分の2が女性です。

○この会のメリットは、会員がもっている、国籍・年齢・専攻の違いによるさまざまな価値観を勉強会やグループ展を通して研ぎ澄ましたり、見直したりできる有意義な機会を設けられることにあります。

★Member★

Michiko Kikuoka, Meisyuku Ito, Suil Park, Erina Takagi, Akiko Noguchi, Eiji Fujinami

EMSME会をどうぞよろしくお願いいたします。



私の人生 満足観100% 菊岡深智子

学生時代の学食から始まって、それぞれの異なった学部からの友情とアートが結束してできたエムスメ会。この会を現在まで続けてきたことに私は、この上ない感動と感謝の気持ちがいっぱいです。現在は、全員社会人でありますから、それぞれの環境で、個々の強い意思のもとで、作品の制作を続行してきておりますが、個人の発表も発展する場所があつてこそ、励みになり、作品の発想力、そして個々の繁栄につながります。このように、活躍の舞台は重要であり、必要です。もし今やめてしまえば、何のために会を誕生させ、継続してきたのかと個々が考え直さなくてはなりません。

2011年3月に東日本を襲いかかった大地震に、私は驚きと不安を隠せませんでした。しかし、壊滅に近い東日本大震災も、強く復興を望んでいる人々が大量にいるのです。私は、「継続は力なり」という言葉に従って、会の存続を望んでいます。私は、初心貫徹で会の継続を切望します。会に出席できる人、出品できる人で、気軽にやりませんか。戻れる人なら戻る、「ふるさと会」でもいいのではないのでしょうか。……アーメン……



エムスメ会の運営の見直しを・・・ レボリューションを起こせ!!

エムスメ会の会員それぞれの環境が年々変わってきますから、会の存続は個々の環境とエネルギーによって変動するのではないかと考えているのです。したがって、会の運営内容を見直すことが必要となってくるかと思えます。そこで、私は3つの改革案を考えました。

一つ目に、メンバー一同が集まれる機会に、日本中の有名美術館めぐりをします。二つ目に、メンバーの環境を考えて、会の作品展は、隔年の開催にします。三つ目に、年一度は、会食しながら話し合う場を設けるのです。話し合いの場では、小品を持参して発表すると良いのではないのでしょうか。

いずれにしても集団で動くことは、だんだん難しくなると思えます。そこで、大改革案があります。七夕様ではないですが、年に一回会って、会食しながら近況報告のみを行うことにするのです。

また、幹事さんは、持ち回りで変わっても良いと思います。2名で一組にするのはいかがでしょうか。

日本の戦中・戦後を生きてきて、様々なことがありましたが、家族の理解のもと、音楽とか、絵とか、楽しいことをこなしながら、生き続けております。有能なプロの位置づけはできませんでしたが、二男一女にも恵まれ、なごやかな生活環境の継続に、満足、乾杯です。

現在、私が毎日継続して、行動していること…それは、健康維持のため毎日1時間の散歩をしています。毎日近くの日泰寺に、家族の平和と健康を祈願しています。また、ボケ防止のために、名古屋高年大学鯉城学園とあいちシルバーカレッジに願書を提出中です。合格すれば、また大学生活を始めます。今は合格発表を心待ちにしているのです。
(2011年3月 記)

菊岡深智子

愛知県名古屋市

1953年 名古屋市立菊里高等学校音楽課程卒業
2005年 京都造形芸術大学美術学部洋画科卒業
2007年 名古屋芸術大学大学院美術研究科洋画制作研究修了
2008年 名古屋芸術大学大学院研修生

2009年 第75回独立展入選
2007・8・10年 エムスメ会展

現在は、豊かなインスピレーションを武器に、公募展に出品するなど、余暇を十分に活用しながら作家活動を行っている。



「人間と自然」が結ぶ ゆらぎの世界

伊藤明淑

季節の中に見える自然の移り変わりや、人間の生と死は、密接に重なり合っている。自然の中の厳しさとあたたかさ、人々の中にある厳しさとあたたかさは強い繋がりをもつ。

人間と自然が強い繋がりや結ばれているということと同様に、私の中で「描く」ということは、生きていく中で切り離せないのだ。季節が移りゆく度に色づく自然を表現することで、私の生きる様子をぶつけることができるのではないかと考える。だから私は、念頭に浮かびあがるそれぞれのゆらぎの世界を追求しつつ、それを自己の作品の色彩に埋もれさせている。



「人より」30×30cm 2010



「人より」SM 2008

EMSME会展は「自分の個展である」というスタンスで・・・

私たちEMSME会は、グループ展を開催することで出会う6人の作家同士が、お互いに刺激をし合って成長していく・・・、そんな会であってほしいと願っています。EMSME会展では、メンバーそれぞれの活躍を作品や意見交換から知ることができ、私にとって制作活動をする上での大きな励みになっています。

私がかねてから思っていることですが、これからのEMSME会のグループ展では、メンバー1人1人が「自分の個展である」というスタンスで、責任をもって発表して欲しいですね。

伊藤明淑

韓国ソウル市

2005年 名古屋芸術大学美術学部絵画科洋画コース卒業

2007年 名古屋芸術大学大学院美術研究科洋画制作研究修了

個展4回

韓国水彩協会展 特選、 水彩聡明展 入選9回

水彩協会展(日本)新人賞、同展 奨励賞、 三重県展 入選 4回

桑名市展 市長賞、同展 文化協会賞、同展 奨励賞

名古屋一釜山日韓交流展 9回(運営委員)

桑名一馬山日韓交流展 9回、 アジア水彩画大展 招待出品 4回

Seoul International Water Color Festival 招待

現在、
毎日文化センター講師、
アートスペース美園絵画教室主宰、
水彩聡明展 中部会員

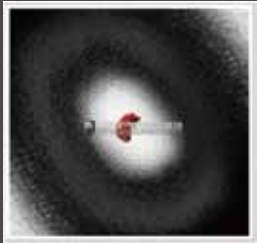
自ら主宰する絵画教室の運営にとどまらず、
個展を開催するほか、名古屋近辺のグループ
展に出品するなど、精力的に活動している。



The story that delivers warm thoughts into one's mind 美しい世の中・暖かい心で生きていく物語

朴秀日

もうEMSME会の5周年って本当に早いですね。5周年はEMSME会にあたって意味深い一年だと考えています。これまでの5年間、EMSMEも少しずつ変化し成熟してきたと思います。学生から社会人になってから集まりの内容や展覧会のことも変わりつつ、よりレベルアップしたEMSME会になれるために代表役としての責任感も実感しています。でも何より楽しみにしているのは、今年の5周年をきっかけにメンバーのみんながEMSME会のために一体化となり、新しい変化と活動が期待されるためです。あと10周年も楽しみです。何よりも今年の5周年からはEMSME会の動きも少しずつ進歩していく意味のある一年だと考えています。EMSMEメンバーのみんなに感謝します。皆様の声援の程、どうぞよろしくお願ひします。



左「氷河が溶けてしまうと我々もいなくなる」2008
右「タッチパネルシステム」2005



「五条川の桜」2005



「愛・地球博体験」2005



「2004Toyotaの冬」2004

エムスメ会の代表として・・・ 環境・建築デザインの研究と夢

EMSME会の代表としての課題は、何よりも今年から新しく変わる展覧会の調整に関することですね。1年一回から2年一回の展覧会へ、作品の内容や新しい会場の調整など今年の5周年をきっかけに以前と非常に変わるので代表としての役割も大きいと思います。EMSME会がもっと進歩していくためには代表としてメンバーの意見をうまく反映していくことだと思っています。

個人的には、今年から環境・建築デザインという新しい研究を行うことになりました。環境にやさしいものづくりはもちろん人間生活のすべてを「ECOデザイン」として表現してみたい夢を持っています。将来は環境にやさしい都市デザイン、とくにランドスケープデザインのことに研究をしていくことです。

韓国の釜山出身の朴秀日です。2004年、知人の紹介で日本に来てからもう7年目になりました。これまでを振り返ってみると勉強から社会人の経験まで大切な経験ばかりですね。

トヨタ自動車の博物館の見学でトヨタのフラッシュアニメや愛・地球博での仕事がきっかけになりたくさんの友達ができただけはもちろん万博の空間体験コンテンツをつくったり、2006年の春、五条川の桜の作品をつくるために日本の桜を少しだけでも知ることになったこと、桜並木の下で三脚台が倒れてカメラが壊れたショックも今では懐かしい良い記憶として残っています。

社会人になってからはSUPER GTレースに関するさまざまな作品をつくって、日本全国のSUPER GTのサーキットを訪ね、企業の販促・広報活動などの経験も全部忘れられない大事な思い出だと思います。

このように楽しく生活することができたのは、いつ、どこでも応援してくれる大事な友達はもちろん、EMSMEメンバーのお陰だと思います。今年から新しい環境・建築デザインにチャレンジする

ことにしました。大変な道だと思いますが、大事な人々の応援を忘れずにもっと力を出して頑張っていきたいと考えています。

朴秀日
韓国釜山

- ・韓国東明情報大学造形学部コンピュータグラフィックデザイン学科
- ・名古屋芸術大学大学院デザイン研究科メディアデザイン修了
- ・神戸芸術工科大学大学院総合デザイン専攻在学中(2011年)
- ・Seoul International Cartoon & Animation Festival 3位(2001年)
- ・韓国美術大展入選(2002年)
- ・留学生展覧会(2004～2005年、4回)
- ・EMSMEグループ展(2007年～2010年)
- ・タッチパネルシステムを名古屋市営交通局発表(2007年)
- ・釜山国際デザイン展環境デザイン作品制作展示(2010年)

現在、神戸芸術工科大学大学院生 兼 デザイナーで、忙しくも充実した毎日を送っている。



EMSME会は私にとって大学時代の恥ずかしい、懐かしい思い出がいっぱいつまった、縁を切りたくても切れない家族みたいなものです。

EMSMEはたまたま同じアトリエにいて菊岡さんに入れてもらいました。今思い出すと懐かしいです。アトリエの入口付近が私のスペースで、奥に明淑さんと菊岡さんのスペースがあり、そこに藤浪くんと明淑さんが知り合いで、よく藤浪くんがアトリエに訪ねて来ました。三人で学食を持ち寄り、なにやら会議?が始まる(笑)。同じアトリエなんで、息を潜めて制作していたら菊岡さんに、「あなたも入れてあげておくれよ。」と言われ、おにぎりももらいました。

EMSMEの良い所は年齢や国籍や専攻が違う人の集まりで、展示する場所や来る人を選ばない所です。これからもみんながいるかぎり、長く続くといいですね。5周年ほんとうにおめでとうございます。



「ピカ」2004



「パパ」2007



「部屋」2007

+ α したような感覚を味わうために

みなさん働きながら制作活動をしています。個人の活動もありますが、がんばって長く続けていきたいです。EMSME会は長く続けることでわかることがあるような気がしています。まだまだこれからだと思っています。

後、忘れてならないのが、谷本先生と池側先生の映像表現演習の授業です。この授業でEMSME会のメンバーは初めて一緒に展示をし、デザイン、洋画、日本画、映像という他ジャンルの者が集まり新しい物を作るという事を学びました。あの時の+ α したような、感覚をもう一度味わいたくてEMSMEを続けているんだと思います。

大学で油彩画を学びました。時間や記憶をテーマに日常生活をモチーフに絵を描いています。

母が脳の病気だったので、記憶というものにすごくこだわっていました。昔描いていたのは、母との病院生活。名古屋城の隣に病院があり、よく天気の良い日は散歩に行きました。

まだ春の寒い時期、ユキヤナギの花が堀の周りを一斉に咲きますが、記憶が消えていく母とぼや〜とした、春の雰囲気や、冬の夜の病院を描いたり、あとは、それに関わる家族などを、自分で記録するように絵を描いていました。

どれも、淡々と、過ぎる日々を自分なりに記録していたんだと思います。当時は描きたいことが多すぎて、伝えたいことが多すぎて、何も言えなくなるような、そんな繊細な所もありました。

制作は携帯電話で撮った写真を見ながら描いています。データは大量に保存できますが、一瞬で消す事もできます。絵を描く作業は記憶を確認する作業で、描いていると安心します。

油絵は特に強靱な皮膜が時間や記憶を封じ込めることができるような気がしています。

平松絵里奈(旧姓高木)
愛知県名古屋市

- 名古屋芸術大学美術学部絵画科洋画コース卒業
- 名古屋芸術大学大学院美術研究科洋画制作研究修了
- 2004 CREATE(Gallery MOCA/愛知)
- 2005 CREATE(Gallery MOCA/愛知)
- 2007 NEW WAVE VIII(ギャラリーくさ笛/愛知)
- 2008 二人展(ギャラリーくさ笛/愛知)
- 2009 三人展(ギャラリーくさ笛/愛知)
- 2010 個展(ギャラリーくさ笛/愛知)

現在、中学校の非常勤講師と主婦業を両立させながら、仕事の合間に制作活動にも取り組んでいる。



私は後から入った後期メンバーになり、会のEMSMEの名前にもなった初期メンバーに比べ日は浅いメンバーとなりますが、EMSME会が出来てから5周年を迎えることとなり、おめでとうございます。おめでたいですね。メンバーも欠けることなく5年間続いてきているんですね。少し感動というか感慨深かったです。

私は丁度大学を卒業する頃にメンバーになりましたが、出会えたのが学生の頃だったので、たまに打ち合わせなどで久しぶりにメンバーが一堂に集まる時は、学生気分を思い出すような、懐かしく思う機会になることもあります。少し思い出話となりましたが、EMSME会はそれぞれ専門分野の異なるメンバーが集まっていますので、考え方やアイデア、それぞれの専門知識など、会うたびにいろんな刺激いろんな勉強になるいい機会となっています。



「Untitled」2009(zoom)



「Paper lace」2008(zoom)



「Paper lace」2008



「Japanese paper」2009

「継続は力なり」という言葉から生まれるエネルギー

最初は学生メンバーでしたが、今では卒業して住んでいるところもばらばらになり、それぞれ忙しくもなり、連絡やコミュニケーションも取りづらいこともあります。今年で5周年。なかなか力強く励まされる数字ですね。

以前メンバーの誰かが「継続は力なり」というようなことを言いましたが、その時はそれほど重みを感じなかった言葉が、年月を重ねて今回5周年を迎える今日この頃、この言葉の重みを感じてきております。続けることの難しさと続けることで得られる確かな成長。誰かがその時はなにげなく言ったのかと思いますが、この「継続は力なり」という言葉の力を、これからもEMSME会で見たいと思います。

メンバーのみなさま、メンバーの一員としてこれからもお世話になります。よろしく願いいたします。

大学在学中にスケッチブックやチラシの紙の破り目に、偶然で自然な形があることに気づき、それ以来、破り目の魅力に興味を持ち破り目でできる表現の可能性を探しています。

破り目に興味を持つきっかけは、私はよくメモをすることが多く、メモ帳がその時手元にあればいいんですけど、ない時はスケッチブックや紙を破ってその切れ端を活用していました。ある時、切れ端ばかりにメモしてしまった情報を整理しようと並べた時、たくさんの切れ端の破り目がとても綺麗に感じたんですね。ほんの些細なことでも些細な感覚でしたが、これが、破り目で作品を作るきっかけでした。

現在、破り目を筆やペンといった線表現としてとらえ、和紙や洋紙を使いカッターで切った線との比較表現と共に絵画作品を中心に制作しています。素材は主に紙を中心としています。洋紙と和紙でも繊維の並びが違

うことから表現方法も異なり、日々、素材と対話しながら表現方法を探しています。

野口晶子
愛知県稲沢市

名古屋芸術大学美術学部デザイン科ヴィジュアルデザイン卒業
名古屋芸術大学大学院デザイン研究科ヴィジュアルデザイン修了
名古屋芸術大学美術学部卒業制作展ブライトン大学賞佳作
第20回全国和紙画展 入選
第21回全国和紙画展 銀賞
第22回全国和紙画展 銀賞
第23回全国和紙画展 入選
EMSME会グループ展

現在、フリーランス。公募展に出品したり海外展に参加したりと、「破り目職人」として制作活動を精力的に行っている。



エムスメ会誕生5周年を迎えて、やっとここまでこれたか、というより、もう5周年になるんだなあという感じがします。なんやかんやで会の初代代表をやらせていただいて、食堂でのお食事会がこんなにまで大きな会に成長するとは！自分一人の力では到底できない、メンバー皆さんのおかげです。

今は、学生時代と異なり、メンバー同士が集まる機会が難しくなってきましたが、それでも年に1回はある勉強会で、メンバーの顔ぶれが並び会話ができることは、とても嬉しいことです。

今度の2012年に開く展覧会は、エムスメ会の成長を公に見せられるように、その覚悟で制作を進めねばと思っています。



「塔の方へ」2008



「終わりはいつも始発駅」2008



「蘇水峡」2006



「小雪の定光寺駅」2006

「アート」という関係で結ばれているひとつの社会

この会のメリットというのは、人種、性別、居住地、社会経験などの面で、メンバーそれぞれが違った価値観をぶつけ合えることだと思いますね。エムスメ会がひとつの社会じゃないかな、と僕は思っています。

そういう意味では、メンバー6人が「アート」という関係で結ばれているのは、狭いようで広がったりして…。この会のメンバーと会って話をしているだけで、自分を見つめ直すことができるし、もうちょっと活動しなきゃ、と思ったりする。自分にとってもいい刺激ですね。

だから、これからもこの会に参加し続けていきたい、って思います。自分が年を重ねていったとき、どんな作品ができるかが楽しみですから。

僕は、今まで風景を中心に描いてきました。現地に行き、その場で3時間～5時間くらいじっと風景を見ながらペンを動かす。とくに、冬の時期は大変でした。もちろん、日中にスケッチをするのですが、4時半頃から日が陰ってきて…。

時々休憩しましたが、ほぼずっと同じ姿勢でやっているの、手がカチカチになってくるんです。手首も動かなくなるし、鼻水も出るし大変な時があったなあ。そういえば花粉症の時もひどかったですね。集中して描いている時は、不思議と鼻水が出ませんが、ちょっと気を抜くと出てくる。こういうときは気を抜かずに、一気に仕上げようと思いました。

そんなスケッチ旅行を繰り返しながら、下宿をしていた愛知県を中心に30点ほど、スケッチができました。枚数は少ないですが、それらを元に10数枚が日本画作品として生まれたんです。

僕の作品には、緑や橙の単一な色調が多いですが、その理由の一つに、色のもつ効果と風景のイメージが一致するからなん

です。まだ発展途上の段階だと感じているので、これからどう変化させるか、模索しながらがんばっていきます。

藤浪瑛智
静岡県静岡市

名古屋芸術大学美術学部 絵画科 日本画コース卒業
名古屋芸術大学大学院 美術研究科 日本画制作研究修士
第41回日春展 入選
第17回臥龍桜日本画大賞展 入選・第38回日展 入選
藤浪瑛智日本画展(亀山画廊/静岡)
若武者日本画展(ノリタケギャラリー/名古屋)
元 県立養護学校臨時講師、公立中臨時講師、私立高非常勤講師、公立中学校教諭

現在、私立中非常勤講師、NHKカルチャー静岡教室講師、かぜのへや絵画教室代表等をしながら、しずおか物産市グループWEB広報担当として新しい取り組みにも挑戦している。

History of group EMSME



第1回展DM

Produced by Akiko Noguchi, Suil Park, Eiji Fujinami



第2回展DM

Produced by Akiko Noguchi



当初、会の目玉は「先生と語る会」であった。 いずれも名古屋芸術大学内にて学内の先生をお招きして、自分の専攻分野とは違う価値観に触れ、広い視野を持つことが目的であった。

これが…今や貴重で懐かし(?)の会員証
その頃は、会員を増やすかどうか模索の時だった。



これまでの歩み

2006

- 5 第1回勉強会を名古屋芸術大学食堂で開催
- 6 「MEMEの会」(EMSME会の前身)発足 当初会員は4人
- 8 新会員加入(会員が5人へ)
- 9 「EMSME会」発足
- 12 新会員加入(会員が6人へ)
- ※「先生と語る会」を不定期的に開催

2007

- 3 EMSME会金沢旅行(21世紀美術館他)
- 9 「第1回EMSME会Life&Sensation展」名古屋市民ギャラリー栄にて開催

2008

- 11「EMSME会幡豆展(第2回展)」幡豆町いきいきセンター 2Fにて開催

2009

- 年数回、勉強会を開催

2010

- 3「第3回EMSME会Life&Sensation展」名古屋市民ギャラリー栄にて開催

2011

- 9 EMSME会発足5周年を迎える

2012

- 5 「第4回EMSME会展(5周年記念展)」ギャラリー彩(名古屋・栄)にて開催

To be continued...



第1回展用「Life&Sensation」ロゴ
Illustrated by Suil Park



5-Year Activities



第3回展DM
Produced by Akiko Noguchi



第4回展DM Produced by Suil Park, Eiji Fujinami



EMSME会の幕明けは、「MEMEの会」
名古屋芸術大学オープンキャンパスフリマにて



展覧会では、講評会を実施している(第3回展にて)



EMSME会のメンバー記念写真 左から、EMSME会発足記念(大学院研究室)、第1回展記念(名古屋市)、第2回展記念(愛知県幡豆町)

◇EMSME(エムスメ)会に関する最新情報は、公式ホームページをご覧ください

Group EMSME official website 「エムスメ会」で検索!!
<http://artspace.sakuraweb.com/emsme/>

※最新の会の情報やメンバーの活動情報を入手できます。

◇お問い合わせ

EMSME会情報局
E-mail art_emsme@yahoo.co.jp

EMSME(エムスメ)会5周年記念誌
2012年5月 発行

発行責任者
藤浪 瑛智
(アトリエかぜのへや)

◆編集後記

まず、本記念誌の発行が、当初の計画よりも大幅に遅れてしまいましたこと、お詫び申し上げます。会の財政状況が厳しく、冊子としてのデビューは難しくなりましたが、ホームページよりダウンロード可能にして、広くみなさまに配布することができるようになりました。

エムスメ会に興味を持たれた方へ〜本記念誌が、どのような会なのかをより深く知っていただける材料となりましたら、この上ない喜びです。また、メンバーのみなさまには、5周年をひと区切りとして、今後の活動に大きく貢献できれば幸いです。

最後に…エムスメ会の5周年記念誌がようやく完成まで、こぎつくことができましたのは、メンバーのみなさまのご協力あってのことです。ありがとう〜!! (E・F)

協力
菊岡 深智子
伊藤 明淑
朴 秀日
平松 絵里奈
野口 晶子

この記念誌の著作権は、
エムスメ会およびEMSME会にあります
本誌に掲載されている文章や写真等を
許可無く、複写使用することを禁じます

©Copyright 2012 EMSME Group All Rights Reserved.

エムスメの軌跡・関連資料

9



EMSME会
エムスメ